

# 技術で未来拓く

⑤2  
—産総研の挑戦—

工知能研究センターでは、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）プロジェクトを中心に、業務知識や経験を人工知能（AI）に取り込み、AIによって人の活動を支援し知的能力を拡張する研究を進めている。

## データ知識融合

一般に知識を共有するために、テキストで書かれたマニュアルが用いられている。しか

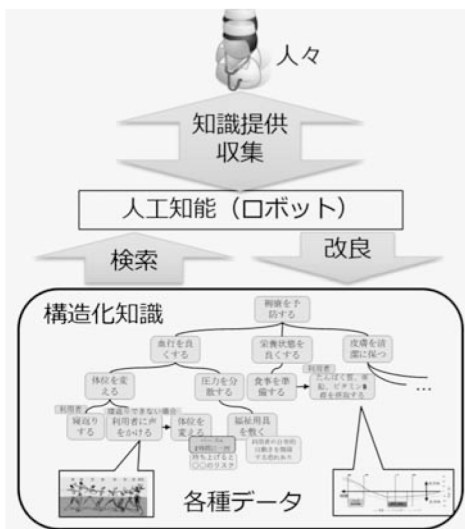
## AIで能力拡張

サービス業、製造業ともにベテラン従業員は、テキストで書かれたマニュアルは、各々の業務知識や経験の集約・継承が重要であつたり、行為間の関係が不明瞭だったりする場合が多い。

## 経験と勘 構造化

# 新たな知専門家とAIで発見

そこで、当チームの西村悟史研究員を中心として、AIが高度な検索や推論に活用しやすい構造化知識としての利用が期待できる。また、構造化マニュアルの各行為を各種のデータとリンクできる



## 概念体系

介護施設を想定して、介護行為の意味をAIが理解できるように概念体系を構築している。これにより、人

知識と経験の共有だけでなく、AIによる教育支援・リスク低減支援や業務プロセスの改善支援を実現したいと考えている。

目的と根拠を説明した新たな知識を獲得する人工知能

間の申し送りなどのやりとりとに含まれる知識と構造化知識との適合性。また、概念体系による共通の語彙を提示できるため、他の介護施設や他の業態との知識共有や意味を含めたデータ交換も可能となる。

産総研人工知能研究センターサービスインテリジェンス研究チーム

西村 拓一



## プロフィール

データと融合した構造化知識をAIが活用しやすくするとともに、人が持つあいまいな知識をIoTやバイオメカニクスで明確化したい。得られた知識を対話的にユーザーに提供し、ユーザーから新たな知識を獲得するAIを目指している。データ知識融合支援システムはライセンス可能。

将来の介護者ほどのような作業を進めるだけで、以前の数倍の被介らうか。認知行動療法を活用して被介護者の作業が考えられる。この知識を内蔵するAIは、こういった介護を介するAIは、この例のように、人の心理状態を把握し、適切な対応をする。介護者の能力をAIにより飛躍的に向上させ、少子高齢化社会や製造業の競争力強化に貢献した守りを常時行い、概要い。（木曜日に掲載）